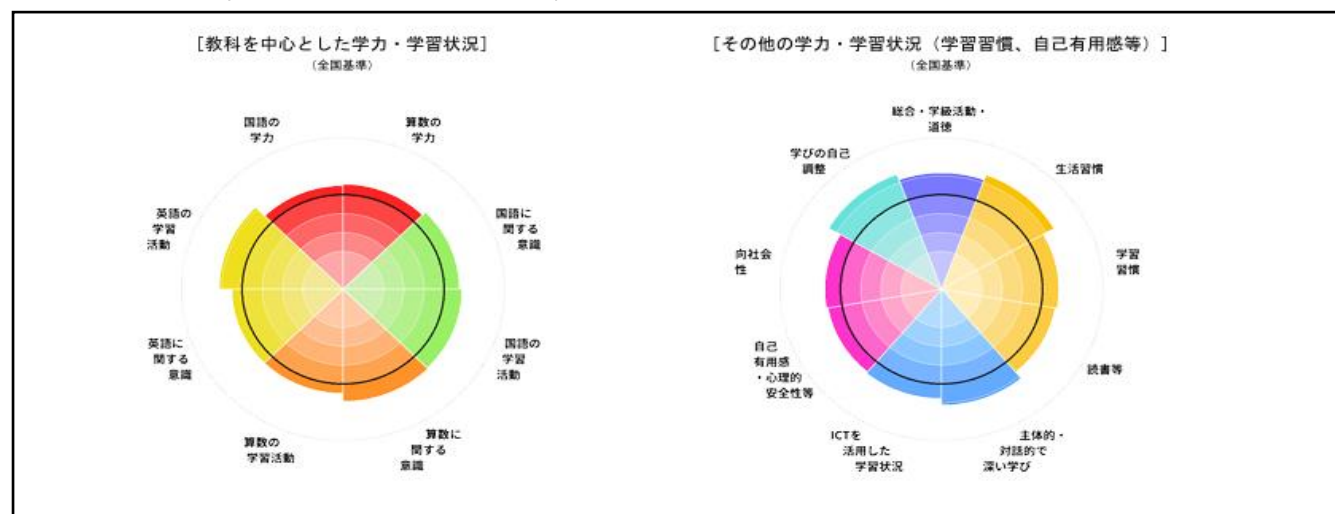


令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和8年4月に全国の小学6年生、中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。実施された「国語」「算数」の2教科について、本校の傾向や課題をお知らせいたします。ご家庭で今一度ご覧になり、今後の学習の参考になしてください。



※上記の図の「英語の学習活動」「英語に関する意識」の項目は、外国語の学習に関する取り組みについての質問調査の結果です。今回の調査では、外国語に関して学力調査は実施していません。

○本校の調査結果【学力】

	国語	算数
本 校	64%	61%
神奈川県	61%	58%
全 国	60.9%	56.4%

グラフの見方

- ・全国との比較になっている。
- ・黒の実線が全国の結果。それぞれの分野の着色した部分が本校の状況を表している。

【学習】分析と課題に対する手立て

調査結果より、全国、神奈川県の正答率と本校を比較すると、国語・算数ともに、平均正答率を上回っている。外国語の学習活動についても高い値を示している。また、主体的に学習に取り組んだり、自分で学び方を工夫したりすることができる児童も多い。

各教科、設問の正答率を見ると、選択式や短答式の問題では正答率が比較的高い。一方で、国語では集めた情報をまとめて文章で表す問題、算数では計算の過程を言葉や式、数字を用いて表現する問題の正答率が低い。いずれの教科も記述式の問題の正答率が比較的低いことから、学習の基礎となる「読む・書く・話す・聞く」といった力を継続して高める一方、自らの考えを言葉や文章で表現する力を伸ばしていきたい。

【生活習慣・意識・関心など】分析と課題に対する手立て

1. 【主体的な学び】学習への取り組み方に関する項目では平均を大きく超えているものが多かった。みんなで関わり合いながら学ぶよさを理解しているとうかがえる。今後も友達と学び合ったり、課題解決に向けて自分なりに工夫したりする授業を展開していく。【学びの自己調整】は子どもが主体的に学びを進めていくうえで大きな力となります。今後も谷本小全体で育てていきます。
2. 【読書習慣】おおむね読書習慣が定着しているものの、休日や授業時間外における読書習慣は全国平均を下回り、学年内でも開きが見られる。日常的に読書に親しみ、自ら読書を楽しめるよう、学校図書館の活用をより進めていきたい。
3. 【自己有用感】「学校は楽しいですか。」「普段の生活の中で幸せを感じますか。」という設問では全国平均を大きく上回っていた。友達と関わることの楽しさや自分のよさを実感している。本校が継続して取り組んできた「誰もが・安心して・豊かに」学べる学校・学級づくりが実を結んできたといえる。